



「女！ 女？ あゝ女…」

先年、町の催事に女性蔑視言葉を集めて掲示したところ。大反響。そこで、一部ですが皆さんにも読んでいただきたく掲載しました。全部の注釈を載せられないのが残念です。!

●「女性は男性より劣る」の視点

「女々しい」「女だてらに」「女の腐ったような」「女は子宮でモノを考える」「女の浅知恵」「家内」「兄弟・父兄（例：人類、皆兄弟。女性は人でも保護者でもないらしい）」「女・子ども」「女子と小人は養い難し」「雌雄を決する…雌＝劣・敗 雄＝優・勝。「女は成仏できない」「女は業が深い」「女は不浄」「女 賢くして 牛売り損なう」「女の一念 岩をも通す」「女に白い歯は見せられぬ」「女の利発 牛の一散」等々

●「主体は男性、女性は従属・所有物」の視点

「主人・旦那様」「女房役（補佐役）」「未亡人（まだ死なない人。夫が死んだら生きてはいけならしい）」「女のくせに」「かかあ天下」「男まざり」「女遊びは男の甲斐性」「産まず女」「腹は借り物」「嫁して三年 子なきは去れ」「女は愛嬌 男は度胸」「女は、幼いときには親に従い、嫁しては夫、老いては子に従う」「女は三界に家なし」「女は売り物」「女は下げて育てよ」「女 氏なくて玉の輿に乗る」「暁と女房は新しいほどよい」「行かず後家」「売れ残り」「董のたった女」「ハイミス」等々

●宗教に見る女性観（意味はご自分でお調べください。）

・仏教…「五障三従」「女人結界」等

・儒教…「女に七去あり」「血盆経」「増一阿含経」等一に女人は臭穢（汚れて臭い）して不浄なり。二に女人は悪口す。三に～

・キリスト教…「アダムがイブの禁断の実を食したことを原罪とする」「ローマ教皇になれるのは男性のみ」「ジャンヌ・ダルクは女性が男装（甲冑姿）したため、魔女であるとして処刑」「聖書（トマス福音書・コリントの信徒への手紙 第14章）」

・古代インドー教…

マヌ法典「マヌ人類創造に際して、女に寝床、座席及び装飾への愛着を持たせ、愛欲、不正、悪意、悪行を賦与した。～よって男は、ゆめゆめ女の監護を怠ってはならない。」

リグ・ヴェーダ「女の心は導きがたいものである。その知性は軽薄である。」

マハーバータ「女は嘘の権化であるから、女の涙と抗議は取るに足りない。」

・イスラム教…「～ 不忠実、不行跡の心配のある女たちには諭し、それでもだめならこれを臥所に置き去りにし、それも効きめがなければ打て。それで従うならば、かの女に対してそれ以上のことをしてはならない。本当にアッラーは極めて高く偉大であられる。」

ウィルあいち交流ネット参加グループ

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *ア・コール
- *女性学'98の会
- *IPA
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *A・B・C・Net
- *C・C・C
- *グループ・キートス
- *クラリネット'99
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *ウィルD○2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *ベリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *まちづくりファシリテーター勉強会
- *Fem.'09
- *Amelie' 10
- *なでしこAICHI
- *きらり24

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。



男女共同参画は、日本の希望(7)日本の女性の就労は家計を潤し、 内需を拡大させる

中央大学・教授 山田 昌弘

今まで、経済学の分野では、女性の就労は主に労働の観点から議論されてきました。社会学の分野では、主に、家事分担など役割分業の観点から研究されてきました。女性が働いた結果、家計消費の変化にはあまり関心が払われてきませんでした。

いわゆるバブル経済が崩壊したのが1991年。それ以降、日本経済は相対的に停滞しています。中でも、子どもを育てている現役世代の収入の低下が著しいことが分かっています。経済学は専門ではありませんが、内需で最も大きな要素を占めるのは、民間消費です。そして、消費の主体は「家計」です。そして、家計消費は世帯数×1世帯あたり消費水準で決まります。少子化、特に未婚化によって、現役世代の世帯数は増えません。前回述べたように、日本では若者の一人暮らしが少なく、大部分の未婚者は親と同居し続けます。今、急増している単身世帯は、消費が少ない高齢者世帯です(註1)。

では、少なくなっている現役世帯の消費はどうなっているのでしょうか。総務省が行っている全国消費実態調査をもとに、共働き世帯と専業主婦世帯では、どのように消費パターンが異なるかを集計してみました(註2)。

すると、夫婦とも正社員(正規公務員を含む)で働く共働き世帯(「正規共働」と、夫が正社員であっても妻が非正規社員(非正規公務員も含む)の共働き世帯(「非正規共働」)では、その家計構造が大きく違っていることが分かりました。年収は「正規共働」が、「非正規共働」の

1.5倍あります。「非正規共働」は、「専業主婦」世帯と年収はそれほど変わりません。

消費をみましょう。家計分析では、消費を10の項目に分類しています。項目ごとにみると、非正規共働世帯の消費は、教育費を除けば、専業主婦世帯の消費水準とほとんど変わりません(その他が1万円増えますが、それは次回述べます)。つまり、非正規で働く妻の収入は、主に教育費に回っており、他の支出はあまり増えないのです。

しかし、妻が正社員の場合は、消費構造が変わります。光熱費や家事用品、保健医療などの項目は変わりませんが、「被服履物」が専業主婦世帯の1.5倍になっているのを始め、「娯楽費」や「交通通信」、「その他」などが大幅に増え、「食費」も多くなっています。この傾向は、年齢や子どもの有無などで調整しても変わりません。細かく見れば、食費では外食が増え、洋服の単価が上り、「交通」では自家用車の支出が増え、旅行支出も増えます。そして、小遣いに多く支出しているのです。

消費することがよいこととは限りませんが、少なくとも、正社員同士で共働きしている世帯は、グレードの高い消費生活を楽しんでいます。その結果、グレードの高い商品、サービスの需要が生まれます。

次回詳しく述べますが、日本では共働きが増えたといっても、妻が非正規である場合が大半です。だから、内需が大きく増えなかったのです。夫婦共に正社員であるような共働きを増やすことが、消費需要を活性化させて、日本の経済成長を軌道に乗せる鍵なのです。

[編集後記]

やっと冬らしくなりました。

花屋の店先にシクラメンの花が並び、早いもので今年もあと31日となりました。かぜに気を付けてガンバリましょう。

S. I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団

企画協働課協働担当